

2011 年、東日本大震災津波被害からの復興の歩み。7ヶ月後写真と1ヶ月後時の写真
宮城県岩沼市、平塚さん宅。



10月11日撮影— 修理完了のレタス包装機。納屋を残して、母屋は取り壊し片付けられました。
下段の写真と同場所です。



4月6日撮影—津波の痕跡は余りに悲惨な状態で、流されずに形の残ったレタス包装機は何としても再生させようと思った次第でした。

宮城県岩沼市、平塚さん宅のレタス畑。



10月11日撮影— 下段の写真と同じ場所。塩水に浸かった土壌は成分バランスが崩れており、均一の生育は難しい様子。でも、よくぞここまで復興為さったと思います。周囲には未だガレキとヘドロが残る農地が多々の中で、感動の場所です。



4月6日撮影— 上段写真の半年前。多くの農業機械が流され、各所に散乱していました。

宮城県仙台市、佐藤さん宅の畑。



10月12日撮影— 大変感動しました。海岸から離れること2km弱の地です。よくぞここまで育てられました。同じ場所、下段の写真と比較すると、大変なご苦勞を為さったであろう跡が見て取れます。左はレタス、右は小松菜です。



4月6日撮影— ハウスは潰され、トラクターや車がガレキに埋まっていました。

宮城県仙台市、佐藤さん宅を畑側から望む。



10月12日撮影—僅か半年でよくぞここまで復興為されました。



4月6日撮影— 皆さん、第1波の津波でズブ濡れになった後、2階へ逃れ、第2波の津波から命を守られたとのことでした。集落内に位置する為、家屋流出は免れたようです。右手納屋からヘドロに埋まったレタス包装機を引き出しました。

宮城県仙台市、堀江さん宅。一步、一步、着実に復興。(10月12日撮影)



海岸から千数百メートルの地、母屋修理中、未だ住むこと能わず。多くの皆さんが仮設やアパート暮らし。しかし再生に向けて自宅への通い農業を続けていらっしゃいます。育苗ハウスは無くとも庭先で秋冬レタス栽培の育苗が行われていました。堀江さんは辛うじて津波から免れた一部水田でお米栽培をして、刈取り、乾燥作業まで本年こなされました。奥さんは小松菜出荷作業の手を休め、ガレキの片付け等々、復興ボランティアの皆さんに大変助けられているとおっしゃっていました。そして、修理なったレタス包装機を前に「これで私の仕事がまた出来る」と喜んで下さいました。



宮城県仙台市、遠藤さん宅。復興の進む畑とハウス。(10月15日撮影)



電柱奥の松林の向こう側が海です。3月11日、海岸から千数百メートルしか離れていないこの地、収穫目前のレタスで覆われた畑とパイプハウス棟は海水とヘドロに呑み込まれました。その生々しい痕跡を目の当たりにした私に取って、それから僅か7ヶ月後にここまでの情景に行き会えるとは凡そ想像もつかない事でした。遠藤さんの途轍もないバイタリティーに、唯々感服致しました。露地物は勿論、ハウスの中では立派なレタスが育っていました。





遠藤さん宅の修理完了したレタス包装機。その昔、おじいちゃんが年金を貯めて買ってくれた形見の機械との事です。奥さんが、「おじいちゃんが帰って来たようだ」と喜んで下さいました。